

2009年7月

タンザニアにおける「オリセット®ネット」設備の増強について

住友化学は、タンザニアにおいてマラリア予防用防虫蚊帳「オリセット®ネット」の製造を行っている「Vector Health International Limited」(以下、「ベクターヘルス社」)の生産能力を990万張り/年増強し、1,660万張り/年とすることといたしました。増強設備は、本年12月に稼働を開始する予定です。これにより、「オリセット®ネット」の生産能力は、タンザニアで約2,900万張り/年、全世界で約5,100万張り/年になります。

世界では、毎年3.5～5億人がマラリアを発症し、100万人以上が亡くなっています。その90%がサハラ以南のアフリカで発生し、犠牲者の多くは5歳以下の幼い子供です。マラリアは貧困の原因の一つであり、アフリカの経済発展のためにも、マラリアの防圧は不可欠です。住友化学が開発した「オリセット®ネット」は、耐久性に優れ、洗濯しても効果が5年以上持続する長期残効型の防虫蚊帳で、マラリアを媒介する蚊から経済的かつ効果的に身を守ることができるため、WHO(世界保健機関)などから高く評価され、使用が推奨されています。

住友化学は、2003年にタンザニアの蚊帳メーカー「A to Z Textile Mills Limited」(以下、「A to Z社」)に技術を無償供与し、アフリカ現地での生産を開始しました。その後、増大する需要に応じるため、A to Z社のグループ会社と合併で2005年9月にベクターヘルス社を設立し、順次、生産能力を増強してまいりました。国連「ミレニアム開発目標」^(*)にも掲げられるマラリアの蔓延防止に、防虫蚊帳の配布は有効な手段の一つとされておりますが、サハラ以南のアフリカにおいて防虫蚊帳の中で眠る子供の割合は、2000年の2%から2006年の20%に改善が図られてはいるものの、依然多くの防虫蚊帳が必要とされています。こうしたことから、住友化学は、このたび、ベクターヘルス社における「オリセット®ネット」の生産能力を一段と増強することにいたしました。

今回の設備増強により、タンザニアにおける「オリセット®ネット」の関連従業者数は、現在の約4,000人から約6,000人に増加する見込みであり、現地の雇用創出にも寄与することとなります。住友化学は、今後とも、「オリセット®ネット」の供給と現地生産を通じて、事業の拡充を図るとともに、アフリカの自立的発展の一助となることを目指してまいります。

以上

^(*) 国連「ミレニアム開発目標」(Millennium Development Goals: MDGs):

国際連合が2000年9月に採択した国連ミレニアム宣言に基づき、貧困、教育、環境、人権など8つのテーマについて、国際社会が2015年までに達成すべき目標とアクションプランを定めたもの。